



ロータリーは  
分かちあいの心

国際ロータリー第2630地区

# 高山中央ロータリークラブ WEEKLY REPORT

2007～2008年度 高山中央RC会長テーマ

第720回「**力 協 心**」 H19・7・7

平成19年7月7日(月)第720回例会

## 総会 講演会移動例会

14:00～ 高山市民文化会館  
担当 新世代・青少年委員会

(点鐘) 会長 松之木 映一さん

(ソング) 奉仕の理想

(出席報告)

本日の出席…39名 出席率…90.70%

前々回の補正…42名 出席率…97.67%

(会長の時間) 松之木 映一さん

皆様こんにちは、本日7月7日は全国的に七夕の日です。日本古来の星祭りが中国の牽牛・織姫の物語と結びついたもの、星に願いをかけていたものが、短冊に願いを書く習慣に変わってきました。又、本日はNPO法人沖縄アジア・チャイルドサポート代表理事 池間 哲郎氏の講演会による移動例会ですが、時間が午後3時30分開演ですので、食事なしの例会となり誠に申し訳ございません。

本年度RIのテーマに児童虐待や、ストリートチルドレンの問題に対処するプロジェクトを提唱し、参加するという項目があります。

メンバーの島 良明さんが、池間 哲郎氏を呼んで会社の設立記念講演会を開催される事を知り、相談した所協賛する事を快く引き受けていただきました。

おかげで青少年問題のテーマを一つクリアすることができて大変感謝しています。

幹事の永家 将嗣さんに、実行委員会に入って頂き打ち合わせて動いていただき、社会奉仕委員長の取之上さん、新世代・青少年委員長の溝原さん、他実行委員会の皆様には本日の例会まで色々ありがとうございました。

※会長の時間でお話しされました「ちょっと良い話」は紙面の都合上、次回号以降に掲載致します。

(総会)

2006～2007年度収支決算報告

昨年度会計の中田 専太郎さんから、決算報告がされ、会

計監査報告は昨年度幹事の山本さんがされました。

全員異議ナシで拍手で承認されました。

続いて2007～2008年度収支予算(案)が、会計の大保木さんからされ、全員異議ナシで拍手で承認されました。

【第1部 コンサート】 15:30～

【美咲(シンガーソングライター)】

2003年2月、自分で作詞作曲をして路上にてライブを始める。2004年3月高校を卒業後、信州を拠点にシンガーソングライターの活動を開始。現在はお声をかけていただければどこにでもウタをお届けする【美咲日和】と太陽光発電で作った電力を使ってライブを行なう【美咲@光合成LIVE】を全国的に展開中。



【第2部 講演会】 16:00～

【池間 哲郎氏プロフィール】

1954年6月13日 沖縄県に生まれる

NPO法人 アジアチャイルドサポート代表理事

JAN 日本アジアネットワーク代表

沖縄大学非常勤講師(国際ボランティア論)

沖縄市平和行政推進委員

※主にアジア(タイ フィリピン モンゴル カンボジア ミャンマー他)のゴミ捨て場やスラム街などの貧困地域の撮影や支援のために足を運び、人々の過酷な状況や今日を必死で生きる子供たちの姿に出会う。自らが撮影したビデオや写真を使う講演で「日本人こそ、一生懸命に生きているアジアの子どもたちから命の尊さを学んで欲しい」と伝えている。

【プロローグ】

最初に自己紹介をさせていただきます。沖縄生まれで今年(2007年)53歳です。結婚式などのビデオ撮影、編集を行う会社を経営する傍ら民間の国際協力ボランティア団体

創立 1991年5月20日

- ◆例会日 / 毎週月曜日・PM12:30～
- ◆例会場 / ひだホテルプラザ3F・☎(0577) 33-4600
- ◆事務局 / 高山市花園町1-15 丸越商事4F  
/ ☎(0577) 36-0730 / FAX (0577) 36-1488  
/ e-mail: info@rotary17.ocn.ne.jp / http://www17.ocn.ne.jp/~rotary17/
- ◆会長 / 松之木 映一 ◆幹事/永家 将嗣

四つのテスト

- 言行はこれに照らしてから
- 1 真実か どうか
  - 2 みんなに公平か
  - 3 好意と友情を深めるか
  - 4 みんなのためになるか どうか

の代表を務めています。今日は皆さんにアジアの国々で暮らす人々の状況を私が撮影してきた映像を見ていただきながら、同じアジアの人々が貧しさのために苦しんでいること、その中でも子どもたちが大変な状況で生きている、しかし彼らは、「どんなに苦しくても一生懸命に生きている」ことを、お伝えいたします。

#### 〔活動の決断〕

アジアの子どもたちへの支援を行うきっかけは1990年、台湾での売春問題を調べることでした。多くの台湾先住民の娘たちが貧しさのために売られていました。村々を回り調査を行う活動から始まりましたが、当初は適当ではないにしろ真剣に人生をかけて支援する覚悟はなかった。「生涯をかける」と決断したのはフィリピンでした。マニラのゴミ捨て場に暮らしている少女に「あなたの夢は何ですか」と聞いてみました。すると少女は「私の夢は大人になるまで生きること」と答えました。この言葉を聞いた時のショックは今でも胸に残っています。私たちにとって大人まで生きるとは当然です。その「当たり前前のごとが夢だなんて」と悲しくなりました。ゴミ捨て場では3歳くらいの子も休中、真っ黒に汚れ、手足は傷だらけになり血を流して動いていた。子どもたちを見て「何かをしなれば」と思いました。最初の頃は「貧しい国の貧しさの問題は、余りにも深く大きい。私が何かをやったとしても何も変わらない、何もしなくても良いのではないか」との思いもあった。沖縄に帰って「どうすれば良いのか」と真剣に考え、悩んだ結果は「見てしまった以上は何かをすべきだ」と決断し、それ以来、「出来ることは、やっで行こう」と心に誓い現在に至っています。

#### 〔世界の貧しさの現状〕

本題に入ります。世界には約65億の人々が暮らしています。その中で私達のような豊かな国、日本、アメリカ、ヨーロッパなど先進国に暮らしている人々は20%です。残り80%、50億以上の人々はアジア、アフリカなどの貧しい国々、開発途上国に暮らしています。皆さんに知って欲しいことは豊かな国に暮らしている人々はほんのチョットで80%以上は貧しい国に暮らしていることを知ってください。彼らが苦しんでいます。栄養失調状態の人々が11億人は居ると言われています。日本の人口の約5倍、6億もの人々は今日の食べ物さえも手に入れることは出来ません。現状は非常に深刻で、貧しさのために食べ物を手に入れることが出来ない、安全な飲み水が無い、風邪薬などの安い薬さえも買いきれないなど、貧しさが原因で毎日多くの人々の命が失われます。3秒に1人、1日で4万人以上、1ヶ月では120万人、1年間では1500万人もの命が貧しさのために奪われます。さらに深刻なのは亡くなっていくのは、殆ど子どもだということです。失われる命の90%くらいは子どもで、特に赤ちゃんが亡くなります。

彼らはどのような病気で死んでいくと思いますか。日本人にとっては驚くほど簡単な病気で命が奪われます。腹を下して下痢をした。カゼをひいたなどの病気で死んでしま



うこともある。日本ではありえないことです。私たちは豊かで平和な国に暮らし、食事も1日に3食、いただきます。おかずもいっぱいあります。良い物をたくさん食べているから日本の子どもたちは栄養状態が良く体の中には病気と闘う抵抗力が十分に備わっています。だから、小さな病気で死ぬことはありません。開発途上国の貧しい地域に暮らす人々

は「1日、1食だけです」。ゴミ捨て場に暮らしている子どもたちの食事を見て驚きました。おわんにご飯を入れ塩をかけて食べていました。おかずはありません。塩だけです。時にはお湯をかけて食べる。もちろんおかずは無い。子どもたちの体は慢性的な極度の栄養不良状態。ホロホロで病気と闘う力はありません。だから、カゼをひいたぐらいでも死んでしまうこともあるのです。

貧しい国の人々が苦しんでいる原因は私たちのような豊かな国とも大きな関係があります。世界中の人が生きていける食料は充分にあります。100%あります。では、なぜ、これほど苦しむのでしょうか。豊かな国に住んでいる人々は、ほんの20%です。たった2割の人々が世界の食料の7割程度を食べてしまいます。残り3割の食べ物を80%の人々が分け合っている。だから足りなくなるのは当然のことです。貧困や飢餓の問題は食べ物があるか無いかではなく、分け方の問題です。

日本人とも大きな関わりがあります。アメリカ人と日本人が世界で最も贅沢な国民だといわれています。余りの食生活の贅沢さに「異常だ」と思口を言う方もかなり居ます。もっと考えないといけないことがあります。日本人の食卓に出てくる食料のうち、20%近くは残飯として捨てられています。カロリーで計算すると、日に7000万人もの人々が生きていくことが出来ると言われている。

私はこれまで(2007年1月現在)800校以上の学校で講演をさせていただき、30万人近くの子どもの人たちと触れ合ってきました。小中学校では講演を終えた後、給食を見せていただくこともあります。どこの学校に行ってもショック

を受けます。凄まじいばかりの残飯で、今の日本の子どもたちは「食べ物が大切だと思う心は失った」と実感いたします。

もともと日本人は食べ物を大切にしました。米1粒に対する思いも強く、ある地域では1粒の中に仏様が宿しているとの教えもあります。残念ながら今は違います。世界で最も食べ物を粗末にする国民と言っても過言ではありません。いつでも溢れるくらい有るからでしょうか。大人たちが子どもたちに食べ物の大切さを教えることが重要であるにも関わらず、大人が食べ物を粗末に扱う。日本の子どもたちの悲しい現状は全て大人の責任だと痛感します。同じアジアの国の人たちでさえ今日の食べ物が無くて毎日、多くの人々が命を失います。今こそ私たち日本人は食べ物の大切さを真剣に考えることが大事だと思います。

(絵報委員会 新宮 一郎)

